

葉っぱを使ってパームワインをのむ野生チンパンジー

ヒトとアフリカにすむ大型類人猿はアルコール代謝を可能にする遺伝的変異形質を共有している¹。現代ではほぼ全世界的にアルコールが消費され、どの社会でもアルコールが醸造されていることが知られている。飼育下における実験的投与や野生類人猿における逸話的な観察事例をのぞくと、習慣的かつ自発的なアルコールの消費はこれまでヒトでのみ知られていた。

英国王立協会のオープンアクセス誌 *Royal Society Open Science* で発表された本研究は、野生類人猿の長期にわたる習慣的なアルコール摂取を定量的に示した初めての報告になる²。ギニア共和国ボッソウでは野生チンパンジーの研究が 1976 年以来、長期に継続しておこなわれている。

京都大学霊長類研究所の松沢哲郎教授を研究代表者とし、京都大学や中部大学、オックスフォードブルックス大学、ケンブリッジ大学など国際共同研究チームによる観察データを、筆頭著者のキンバリー・ホッキングス（オックスフォードブルックス大学）が取りまとめた。

ボッソウの地域住民はラフィアヤシの木の上にポリタンクを設置し、朝と夕方に自然発酵したパームワインを回収する。アルコール度数は平均すると 3.1%だったが、6.9%に至るものもあった。ボッソウにくらす野生チンパンジーは、このポリタンクを発見すると道具となる葉っぱを浸し、パームワインを飲む。1995 年から 2012 年まで計 20 回、のべ 51 個体が観察された。この行動は性別を問わず、6 歳の子供から大人までにみられた。本研究は、野生チンパンジーがアルコールを含んだものを嫌悪することなく採食することを示している。

¹ Carrigan MA *et al.* 2014. Hominids adapted to metabolize ethanol long before human-directed fermentation. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*. DOI: 10.1073/pnas.1404167111

² Hockings KJ *et al.* 2015 Tools to tipple: ethanol ingestion by wild chimpanzees using leaf-sponges. *R. Soc. opensci.* 2: 150150. <http://dx.doi.org/10.1098/rsos.150150>



2004Aug09Peley_drink_palm_wine by Gaku Ohashi